

わたしのまちの

河南町 KANAN CHO

# 風物詩

たいがつかはっさくいち

古くからの歴史が息づく伝統行事～大ヶ塚八朔市～

河南町は、金剛・葛城山脈に連なる山地部と、その前面に広がる丘陵地と段丘地からなり、古くから開けたこの地には、数々の古墳や遺跡などが多く見られます。また、有名な寺も多くあり、歴史遺産の豊かなまちであります。その中でも、寺内町として発達した大ヶ塚を舞台として行われている行事を紹介しましょう。

「八朔」は、元は陰暦であったころの、「八月<sup>つひ</sup>日<sup>たち</sup>（1日）」の略で、今の暦で言えば、一月遅れの9月1日前後にあたります。

古い文献（<sup>くじ こんげん</sup>公事根源、民間年中故事要言、月令広義）などによると、いろいろ説はありますが、要するところ、稲穂が膨らむこの季節に、豊穰を祈る行事を行ったということで、近世の初めごろから、<sup>まち</sup>町場大ヶ塚に「八朔市」が行われ、五穀豊穰の季節を選び、催されたものだと言われています。

「八朔市」が最もにぎわっていたのは、大正から昭和の始めごろまでであったといわれ、そのころに市で並べられていた商品は、日用雑貨、呉服、はき物、道具類、陶器類、玩具、食料品、古物など。たいていの物が買い求められたそうです。また、露店



だけでなく、芝居やサーカス、見せ物、幻灯（のぞき）などの興行もあり、昼夜の人出は、たいへんなものであったそうです。

昭和47年（1972）のころ、作家の司馬遼太郎さんが、たまたま八朔の日にこの地を訪れて、そのにぎわいを書いておられます。近年になり「八朔市」のにぎわいは、少しずつ衰えてきましたが、今は、地元有志の人たちによってこの伝統ある行事を存続させるため、努力が続けられています。

現在では、子どもたちが喜ぶ、金魚すくいや的当て、たこ焼き、綿菓子、フランクフルトなどの露店が並び、昔の活気を取り戻そうとしています。



## ● お問い合わせ先 ●

河南町総務部人事広報課

TEL：0721-93-2500（内線211）

FAX：0721-93-4691

E-mail：kouhou@town.kanan.osaka.jp